

きずな

SENBI

2017年7月

第2903号

今 何をすべきか！ —第1四半期をおえて—

代表取締役社長 中田 義秀



広島県は、6月7日に梅雨入りしました。

また、気温も高く体調管理も難しい季節となりますが、社員の皆様におかれてはどうか体調管理に努めら、元気で有意義な毎日を過ごしていただきますようお願いいたします。

早いもので、37期の第1四半期が過ぎました。

6月に開催した営業会議で、担当部署ごとに実績報告を受けましたが、依然として業績が伸び悩んでいる実態があります。

明るい兆しの見えない経済界において、受注はあるけど、「人材確保ができない。」或いは「採算性が取れない。」などの理由から、厳しい判断を迫られる事案もあります。

また、公共施設においては入札制度の見直しがあり、これまで受注できた物件も応札の参加資格を得ることが困難となり、業績に大きく左右される事態も発生しています。

当社は、これまで親切・丁寧なサービスの提供によりお客様との信頼関係を築き、その礎により仕事を受注してきましたが、今後はこの親切・丁寧にプラスαのサービスも必要となっていると強く感じています。

社員の皆さんは、プラスαの意識改革を常に持って業務に携わり、お客様が「センビにお願いして良かった。」と感じてもらえるサービスを提供し続けるようお願いいたします。

また、常々申し上げているとおり、会社の発展には若い力の台頭が必要です。若い社員がベテラン社員と英知を出し合うことにより、会社の業務力は2倍にも3倍にもなり、この厳しい経済環境を乗り越えることができると信じているからです。

社長としても、37期の第1四半期の実績と反省を踏まえ、取り入れるべきものは取り入れ、除くべきものは除き、考えられる全ての方策に手を打ち、利益を社員皆様に還元できる業績を上げるよう頑張っている所存です。



熱中症の予防と対策

7月は「熱中症予防強化月間」です。

熱中症は、気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能が上手く働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

熱中症は命に係わる病気ですが、予防法を知っていれば防ぐことができます。熱中症を防ぐためには、日常生活の中では、次のことに気をつけましょう。

熱中症は
予防が大切



シーズンを通して、暑さに負けない体づくりを続けよう！

熱中症を予防するためには、暑さに負けない体づくりが大切です。気温が上がり始める初夏から、日常的に適度な運動を行い、適切な食事、十分な睡眠をとるようにしましょう。

■ 「水分」をこまめに摂ろう

のどが渴いていなくても、こまめに水分を摂りましょう。スポーツドリンクなどの塩分や糖分を含む飲料は水分の吸収がスムーズにでき、汗で失われた塩分の補給にもつながります。

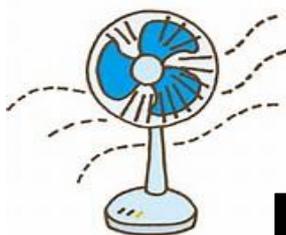


■ 「塩分」をほどよく摂ろう

過度に塩分を摂る必要はありませんが、毎日の食事を通してほどよく塩分を摂りましょう。大量の汗をかくときは、特に塩分補給をおこないましょう。ただし、かかりつけ医から水分や塩分の制限をされている場合は、よく相談の上、その指示に従いましょう。

■ 「睡眠環境」を快適に保とう

通気性や吸収性の良い寝具を使ったり、エアコンや扇風機を適度に使って睡眠環境を整え、寝ている間の熱中症を防ぐと同時に、日々ぐっすり眠ることで翌日の熱中症を予防しましょう。



■ 「丈夫な体」をつくろう

バランスのよい食事やしっきりとした睡眠をとり、丈夫な体をつくりましょう。体調管理をすることで、熱中症にかかりにくい体づくりをすることが大切です。

日々の生活の中で、暑さに対する工夫をしよう！

暑さは日々の生活の中の工夫や心がけで和らげることができます。適度な空調で室内の温度を快適に保ったり、衣服を工夫することで、熱中症の危険を避けやすくなります。また、日よけをして直射日光を避けましょう。自分のいる環境の熱中症危険度を常に気にする習慣をつけることも重要です。

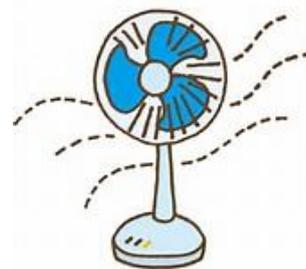
■ 「気温と湿度」をいつも気にしよう

今自分のいる環境の気温や湿度をいつも気にしましょう。室内の場合は、日差しを遮ったり風通しを良くすることで、気温や湿度が高くなるのを防ぎましょう。



◇ 「室内」を涼しくしよう

扇風機やエアコンで室温を適度に下げましょう。
過度の節電や「この程度の暑さなら大丈夫」とガマンしてはいけません。



◇ 「衣服」を工夫しよう

衣服を工夫して暑さを調整しましょう。衣服は麻や綿など通気性のよい生地を選んだり、下着には吸水性や速乾性に優れた素材を選ぶとよいでしょう。

◇ 「日ざし」をよけよう

帽子をかぶったり、日傘をすることで直射日光をよけましょう。また、なるべく日陰を選んで歩いたり、日陰で活動したりするようにしましょう。



◇ 「冷却グッズ」を身に着けよう

冷却シートやスカーフ、氷枕などの冷却グッズを利用しましょう。毎日の生活で使えるものから夏の寝苦しさを和らげるようなものまで、様々なグッズがあります。ちなみに、首元など太い血管が体の表面近くを通っているところを冷やすと、効率よく体を冷やすことができます。

特に注意が必要なシーンや場所で、暑さから身を守るアクションを！

炎天下でのスポーツや空調設備の整っていない環境での作業時などでは、熱中症の危険からしっかりと身を守るアクションをとることが必要です。適度な水分と塩分の補給をおこない、こまめに休憩をとるようにしましょう。



◇ 「飲み物」を持ち歩こう

出かけるときは水筒などで何時も飲み物を持ち歩き、気付いた時にすぐ水分補給できるようにしましょう。



◇ 「休憩」をこまめにとろう

暑さや日差しにさらされる環境で活動をするときなどは、こまめに休憩をとり、無理をしないようにしましょう。



◇ 「熱中症指数」を気にしよう

携帯型熱中症計やテレビ、Webなどで公開されている熱中症指数(※)で、熱中症の危険度を気にしましょう。

※ W B G T 値 (暑さ指数) のことで、気温、湿度、日射・輻射熱を取り入れた指標です。単位は気温と同じ「℃」で示されますが、気温より概ね 3 ~ 4 ℃ 低い数値となります。

新入社員紹介

平成29年4月1日に採用されました職員2名を紹介します。



(かんばら きんや)
神原 欣也
《氏 名》
呉営業所 所長代理
《所属・役職》
昭和32年6月11日(60歳)
《生年月日(年齢)》
《趣味》
読書(時代小説、推理小説)
《一口コメント》
色々と皆様にご迷惑をおかけする
と思っておりますが、精一杯頑張ります。



(かんだ まさあき)
神田 雅章
《氏 名》
営業推進本部 社員
《所属・役職》
昭和62年8月30日(30歳)
《生年月日(年齢)》
《趣味》
今年始めたゴルフ
《一口コメント》
一日も早く必要とされる社員とな
るよう精進します。

編集後記

≡ 初心忘るべからず ≡

「きずな」の発行を再開してから、8月で1年を迎えます。
この間、今回を含めて5回目の発行となりますが、何時も頭
を悩ますのは発行時期と載せる記事です。



今回の「きずな」発行も、何時発行するか考えを巡らしているとき、6月18日、故井上前社長の1周忌を迎えました。

「きずな」を再発行した第1号(2801号)の編集後記で、故井上前社長と「きずな」の結び付きについて触れ、故人の意思を尊重して再発行する思いを綴りました。



そこに思いが至らなかったことを猛省しながら、
急ぎょ紙面づくりに奔走し、どうにか命日直近の7
月発行にこぎ着けることができました。

これからも、編集担当者として「初心忘るべから
ず」の信念で、「きずな」の発行を手掛けていきたい
と心に誓ったところです。

《文責 推進部N.T》